

編集委員会からのお知らせ

1. 「天気」印刷の電算写植化（CPS化）について

既に編集後記などで何度かお知らせしておりますので、ご存じの方も多いかと思いますが、1993年1月号（第40巻1号）から「天気」の印刷を電算写植の平版印刷に切り替えます（CPS化）。

(1) 経緯

印刷を活版で継続するか CPS化するかについては、1989年に編集委員会内に検討ワーキンググループを設け、印刷会社を実地に見学するなどして、その利害得失を検討してまいりました。その結果を受け、1990年6月に理事会に対して、「天気の印刷方式を活版方式からCPS方式に変更することには長所だけでなく、欠点も有り、直ちにCPS方式に移行すべきかどうかの結論を得ることは、現時点においては出来ない。」と、報告しております。

その後も印刷業界の動向を注視しておりましたが、業界における活版印刷の衰退は予想以上に早く進行し、特に活版印刷機械の製造中止に伴い、現用機器の維持や保守が困難になりつつあります。また、ベテラン文選工の高年齢化に伴う後継者不足は深刻で、現在の印刷の品質を維持することにも支障をきたす状況に至っております。このような状況を受け、再度編集委員会においてCPS化に伴う利得損失を検討いたしました。

(2) CPS化の得失

① CPS技術の発展が著しく、それにもなって、今後の誌面作りに多色刷りなどの多彩な編集技術が利用出来る。また、今後の技術革新の動向によっては、編集委員会の編集作業の負担の軽減化が図れる可能性もある。

② 活版印刷においては、紙面を長期保存するために紙型を用いるが、紙型の収納スペースの確保が困難であることなどから、これまで「天気」においては紙面の長期の保存が困難であった。さらに最近では、この紙型業者そのものがなくなりつつある。一方、CPS平版印刷の場合にはフィルムを保存すればよいので、長期保存が可能となり、「天気」連載企画の事後出版が容易に実現出来る。

③ CPS化によって原稿受付のFD化・パソコン通信化などが実現できる。またこのことによって初校にお

ける誤植が少なくなり、さらに比較的早く出稿することができるなど、初校段階における著者の負担が大幅に軽減される。

④ 平版の印刷速度は活版に比較して数倍～10倍程度速い。

⑤ 活版印刷の方が平版印刷に比較して刷り上りが美しい。

⑥ 刷版の作成前に最後の青焼校正を行う必要が生じるなど、活版印刷に比較して1～2工程増える。また入力ソフトが統一されていない。これらのために印刷経費の大幅な減少や印刷期間の短縮にはつながらない。

(3) 検討結果

上に述べた利害得失、および印刷業界全体として活版から平版のCPSに移行しつつあり、現在の活版印刷は今後10年程度でなくなると予想されること、したがっていずれCPS平版印刷に移行しなければならないこと、などの状況を考え合わせ、早期に今後の技術革新に対応した編集体制を確立するほうが得策であるという結論に達しました。この結果を受け、1993年1月号からCPS平版印刷に移行いたします。会員の皆様には、このような事情をご了解のうえ、印刷方式のCPS平版化にご理解とご協力・ご支援をいただくようお願いいたします。

(4) 「天気」体裁の変更

印刷方式の変更にともない、本文の文字の大きさや行数も変更いたします。現在の本文（8ポ）25字×44行（2段組：1頁2200字）から、本文（本蘭明朝体12級）24字×44行（2段組：1頁2112字）となり、1頁の字数は4%少なくなります。また、表紙のデザインについても一新する予定です。現在の表紙デザインは1974年の第21巻1号から使用されており、既に19年を経過しています。来年はデザイン変更から20年目で、巻数も丁度40巻となりますので、印刷方式の変更を機に表紙のデザインを一新いたします。現在のデザインは機能的で非常に優れていますので、基本的には現在のコンセプトを踏襲しつつ、よりよいデザインを目指して、現在デザイン会社と最終的な案について検討を行っております。

(5) フロッピーディスク原稿の提出要領(暫定)

印刷のCPS化にともない、投稿原稿をフロッピーディスクで受け付けることを開始いたします。提出要領については、下記のような暫定要領で実施いたしますので、ご協力をお願いいたします。手書きあるいはワープロ出力原稿については従来通りの要領で受け付けます。

〔A〕 フロッピーディスク(FD)の提出方法

① 論文・解説など査読を伴う原稿のFDの提出については、原稿が受理された時点でFDを編集委員会に送付する。

② 査読を伴わない原稿についても、担当編集委員が改稿を求める場合があるので、最終原稿提出時にFDを添えて編集委員会に送付する。

③ FD提出時には必ずプリントアウトした原稿を添える。打ち出しはA4の白紙(縦置き:感熱紙の使用は不可)を使用し、和文横書きで24×22行とする。

④ FD提出時に、ラベルに原稿の表題・著者名および所属機関・文書ファイル名、および文書作成に使用したワープロの機種名(またはパソコン機種名とワープロソフト名)を明記する。

(例:リコー REPORT 5300 Series, 一太郎 ver 4.3)

⑤ 使用FDは3.5インチまたは5インチ、記録密度は2DDあるいは2HDのいずれかとする。

〔B〕 提出するFD文書の作成方法

① 提出するFD文書は、文章の段落に改行マークを入れる以外は、日本語は全角、英数字は必要なもの以外は全て半角を使用してベタ打ちし、上付き・下付きなどの飾り文字や倍角文字等は使用しない。句読点は「、」「.」「.」のどちらを使用しても良い。

② ワープロにない文字や記号は空白にしておき、プリントアウトした原稿に朱書きで明示する。

③ 提出FDに添える出力原稿については、担当者が読み易いように、必要な飾り文字などを使用し、また必要な割付情報(例:級数指定・書体指定・その他)も原稿に朱書きで明示する。

④ 罫線は変換できないので、提出するFD中では

罫線を使用せず、データのみ入力する。

〔C〕 その他

① 提出されたFDは印刷終了後、図・表の原稿と共に著者に返却する。

② 今回導入するCPSは国産のワープロおよびワープロソフトにはほとんど対応可能であるが、現時点ではマッキントッシュおよびIBMのワープロソフトで作成した文書には対応出来ない。その場合は従来通り、打ち出し原稿および図表のみを提出する(ただし、マッキントッシュあるいはIBM系列のパソコンで作成したMS-DOS形式のテキストファイルは受付可能である)。

③ 手書き原稿については従来通りの規定で受け付ける。

2. 「天気」主要項目索引の作成について

既に編集後記などでお知らせいたしましたように、日本気象学会創立100周年記念事業の一環として行われました、創刊号からの「天気」主要項目の索引(1982年「天気」第29巻4号に掲載)の作成から10年が経過しております。その間の気象学の進歩は著しく、「天気」誌上にも多くの新企画が登場しております。また「天気」の頁数や記事の数も増加の一途をたどっております。

編集委員会ではこのような事態をふまえ、さらに今回の「天気」印刷のCPS化、表紙デザインの刷新を機に、前回以降の主要項目の索引を作成することにいたしました。昨年春より準備作業に着手し、現在はパソコンのデータベースへの入力も終了し、最終的なチェックを実施しているところです。索引の対象は第29巻(1982年)から第39巻(1992年)までの11年間で、総計1500以上の主要記事の各々に、キーワードの付与と分類を行っています。「天気」第40巻(1993年)の5月号あるいは6月号には、題名、著者別、内容別それぞれの一覧を掲載する予定です。さらに、今回はパソコン上のデータベースとして作成されていますので、「天気」誌上だけでなく、気象学会BBSに掲示したりフロッピーディスクで提供することも検討する予定です。